

特集

知って
おきたい

「まさか自分が」となる前に がん治療の“今”



大きく変わった!? がん治療の今昔

「がん治療」と聞くと、「長期入院」というイメージはありませんか？
近年のがん治療の進歩は目覚ましく、体への負担の少ない鏡視下手術やロボット手術が行われるなど、がん治療はひと昔前と大きく変化しています。右の図は、1999年と2023年のがん治療を比較したものです。入院期間の平均日数は、約26日も



昔

入院期間^①

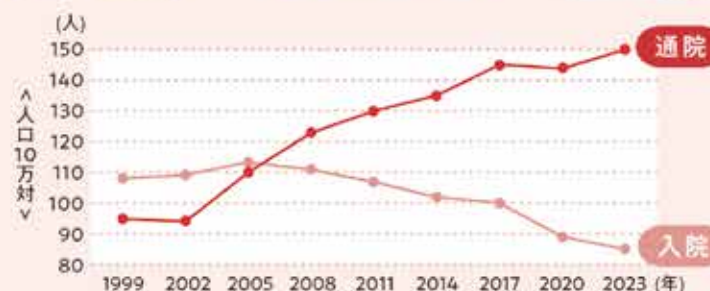
平均
40.1日
(1999年)

平均
14.4日
(2023年)

半分以上の期間に



今



がん(悪性新生物)の
外来受療率・入院受療率^②

約20年で通院治療の患者が増えています

①厚生労働省「平成11年、令和5年患者調査」をもとにJA共済作成 ②厚生労働省「令和5年(2023)患者調査の概況」をもとにJA共済作成

CHECK!

がんの医療費の例

■胃がんの自己負担額*

(一般世帯・70歳未満)

- 胃切除手術(入院17日)..... 10万円
- 薬物療法(通院1年)..... 28万円
- 定期検査(通院年3回)..... 5万円

1年目合計 **43万円** + 2年目以降は年間で **5万円** (通院年2回)

*自己負担額については、公的保険の高額療養費制度を利用し、70歳未満一般世帯の所得水準であることを前提に計算。
①「がん治療費.com」(株式会社エース・フォーエス) 金額は一例です。実際の費用はケースにより異なります。

■先進医療にかかる平均費用

先進医療:厚生労働省が認めた先進性の高い医療技術のこと。公的医療保険の対象の治療も増えてきています。

治療方法	技術料
重粒子線治療*	約314.4万円
陽子線治療**	約267.9万円

*早期がん(1期~2A期)、大型の肺腺癌、子宮頸癌、胆管癌、婦人科腫瘍、悪性黒色腫は2024年より保険診療となりました(いずれも外科手術で切除不能なもの)。

**外科手術で切除不能な早期肺がん(1期~2A期)は2024年より保険診療となりました。

①厚生労働省 第136回先進医療審議会資料(令和5年4月)「がん治療における先進医療に係る費用」をもとにJA共済作成 ②先進医療は随時見直されますので、詳しくは厚生労働省のHPでご確認ください。

先進医療を
選んだ場合、
想像以上に負担額
が大きいんだ



①がん研究センターがん情報サービス「胃癌がん治療ガイドライン(第5版)」に基づいています。②4期がん研究センターがん情報サービス「全国がん罹患率と死亡率(2020)」に基づいています。③厚生労働省「令和5年(2023)患者調査の概況」に基づいています。④がん研究センターがん情報サービス「胃癌がん治療ガイドライン(第5版)」に基づいています。⑤がん研究センターがん情報サービス「胃癌がん治療ガイドライン(第5版)」に基づいています。⑥がん研究センターがん情報サービス「胃癌がん治療ガイドライン(第5版)」に基づいています。⑦がん研究センターがん情報サービス「胃癌がん治療ガイドライン(第5版)」に基づいています。⑧がん研究センターがん情報サービス「胃癌がん治療ガイドライン(第5版)」に基づいています。⑨がん研究センターがん情報サービス「胃癌がん治療ガイドライン(第5版)」に基づいています。⑩がん研究センターがん情報サービス「胃癌がん治療ガイドライン(第5版)」に基づいています。

ステップでおさえる 現代版“がん治療”の道のり



もしもがんと診断されたら、
どんな未来が待っている？
最近のがん治療の傾向と合わせてチェックしてみましょう。

STEP 1 がんを診断される



新しくなった

JAの
がん共済

なら、

一時金が受け取れる

診断保障^{※5}や

がん診断以降の

共済掛金を払込免除^{※6}。

まとまった一時金の保障^{※5}を生活費などの自己負担費用にご活用いただけます。また、がん診断後の共済掛金の払込みを免除する保障^{※6}で、安心して保障を継続できます。



日本人の2人に1人ががんを診断^{※3}されていますが、

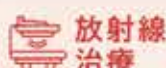
医療技術の進歩によりがんになっても長期生存が期待できる時代に。

がんは誰にでも起こりうる病気ですが、医療技術の進歩により、がんを診断されてから5年後も生存されている方の割合も増えて^{※4}います。治療の方法は基本的に「3大治療法（手術・放射線治療・薬物療法）」と緩和ケア等を組み合わせ、体への負担も考慮して治療方針を決めます。



手術

がんやがんのある臓器を切除して取り除く治療法。



放射線治療

放射線でがん細胞にダメージを与えて治療します。



薬物療法

抗がん剤・ホルモン剤などで治癒や症状緩和を目指します。近年は通院で行うケースも多数。

緩和ケア

がんに伴う体の苦痛・気持ちの辛さを和らげるための、医師・心理士など専門職によるケア。

STEP 2

がん治療を行う

通院治療を受ける人は、1999年の約1.5倍に増えています。現在は治療法の幅が広がり、先進医療も選択肢の一つになっています。

「JAのがん共済」なら、先進医療も保障！

通院が1.5倍



1999年
95人

2023年
150人

人口10万人対



新しくなった

JAの
がん共済

なら、

がんの3大治療法に対応！

入院はもちろん、3大治療法（手術・放射線治療・薬物療法）や、がん性疼痛等の緩和のための在宅医療も保障します。



新しくなった

JAの
がん共済

なら、

入院時だけでなく、

通院による所定の

がん治療も保障します。

通院による薬物療法など、所定のがん治療を受けた月ごとに共済金を受け取れます！がん治療月額共済金の通算支払限度回数はありません。



STEP 3

がん治療と 生活・仕事を両立する



通院治療が増え、^{※2}

働きながら治療を受ける人が約49.9万人というデータも。^{※7}

長期的な通院治療と日々の生活・仕事を両立しながら治療を受けます。しかし以前と同じようには働けず、収入が減ってしまう場合があります。

がん患者の
約半数が収入減^{※8}

減少した
43.2%
n=4,380



詳しくはお近くのJAへ
お問い合わせください。